

## 研究主題「東京都設定教科・科目『奉仕』の指導の在り方

### －年間授業計画及び評価計画の開発－」

東京都教職員研修センター研究部研究課  
東京都立紅葉川高等学校 教諭 高山幹人

#### I 研究のねらい

現代の高校生の課題には、規範意識や自制心などの低下をはじめ、組織や社会に対する帰属意識や公共心の低下、自分に自信がもてないなどの自己肯定感の低下、対人関係能力やコミュニケーション能力の不足等があげられる<sup>注1</sup>。

平成16年4月に策定された「東京都教育ビジョン」では、思春期の課題における取組みの方向として、「子どもたちの規範意識や公共心を確かなものとする」ことが示された。この中において、「奉仕体験・勤労体験の必修化」が提言され、平成17年度における東京都教育委員会の主要施策に位置付けられた。これに基づき、平成19年度より、すべての都立高等学校において東京都設定教科・科目「奉仕」が実施される。

そこで本研究は、「規範意識や公共心を有する人間」、「他人に共感し、社会の一員であることを実感し、社会に役立つ喜びや勤労の大切さを知る人間」を育成する<sup>注2</sup>ため、「奉仕」の教科指導等について研究し、授業計画及び評価計画を開発することや教員の奉仕体験学習コーディネーターの位置付けを明らかにすることをねらいとした。

#### II 研究の内容と方法

##### 1 基礎研究

- |  |
|--|
| (1) 東京都設定教科・科目「奉仕」の目標及び内容の把握   |
| (2) 東京都設定教科・科目「奉仕」の学習による育てたい生徒像の設定                                     |
| (3) 情報の収集  |
| ① 平成17年度「奉仕体験活動必修化実践・研究校」に指定されている都立高等学校21校の実践活動について                    |
| ・教育庁生涯学習スポーツ部、指導部等からの資料収集  |
| ・都立世田谷泉高等学校、都立多摩高等学校、都立松原高等学校、都立桐ヶ丘高等学校、都立武蔵村山高等学校、都立園芸高等学校の授業見学及び意見交換 |
| ② 地域と学校との協働の方向性について  |
| ・江戸川区ボランティアセンター訪問  |
| ・社会教育指導者研修（学校教育支援施策）受講   |
| ・地域教育推進ネットワーク 東京都協議会 課題別部会『奉仕体験活動支援部会』へのオブザーバー参加                       |

##### 2 開発研究

- |                         |
|-------------------------|
| (1) 年間授業計画及び評価計画の作成     |
| (2) 奉仕体験学習コーディネーターの位置付け |

#### III 研究の成果

##### 1 基礎研究

##### (1) 東京都設定教科・科目「奉仕」の目標及び内容<sup>注3</sup>

###### ○ 教科「奉仕」の目標

奉仕に関する基礎的・基本的な知識を習得させ、活動の理念と意義を理解させるとともに、社会の求めに応じて活動し、社会の一員であること及び社会に役立つ喜びを体験的に

注1 教育庁指導部資料「奉仕体験活動の必修化」（平成16年10月）参考

注2 教育庁指導部資料「奉仕体験活動の必修化」（平成16年10月）参考

注3 東京都高等学校教育課程編成基準・資料（案）（平成18年1月）

学ぶことを通して将来、社会に通用する資質を育成する。

○ 科目「奉仕」の目標

奉仕活動の理念と意義を理解させ、奉仕に関する基礎的な知識を習得させるとともに、社会貢献を適切に行う能力と態度を育てる。

○ 科目「奉仕」の学習内容

奉仕活動の意義	ア 奉仕活動の意義 イ 奉仕活動の分野 ウ 奉仕活動とボランティア活動
奉仕体験活動の内容項目例	ア 保健、医療又は福祉の増進を図る活動 イ 教育の推進を図る活動 ウ まちづくりの推進を図る活動 エ 文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 オ 環境保全を図る活動 カ 災害救援活動 キ 地域安全活動 ク 人権の擁護又は平和を推進する活動 ケ 子どもの健全育成を図る活動 コ 様々な活動を行う団体等の運営又は活動に関する連絡、助言、援助

(2) 東京都設定教科・科目「奉仕」の学習による育てたい生徒像の設定

<p>※<u>1</u> 自分よさに気づき、※<u>2</u> よりよく生き、※<u>3</u> よりよい社会をつくらうとする生徒                  (注)                  ※<u>1</u> 自分が大切な存在であることに気づき、一人一人のもつよさを知る生徒 (自己有用感)                  ※<u>2</u> 他者を思いやる心を持ち、自らを律しつつ、夢や目標の実現を目指して成長しようとする生徒 (自己実現)                  ※<u>3</u> 社会の一員であることを自覚し、生涯にわたり、自分の意志で社会や地域に貢献しようとする生徒 (社会貢献)</p>
--

2 開発研究

(1) 年間授業計画及び評価計画の作成

① 履修形態

「奉仕」の授業計画において、想定される履修形態として次のア～エを設定した<sup>注4</sup>。

ア 週時程に位置付け、年間授業計画を実施する。

例1 週当たりの授業時数を31単位時間とする。(全日制課程)

例2 週当たりの授業時数(30単位時間)の中に位置付ける。(全日制課程)

例3 「総合的な学習の時間」の中で、全体計画に基づいて、特定の学年(年次)に奉仕体験活動を35単位時間相当行う。(代替については指導部との協議が必要)

イ 特定の日又は特定の期間に集中して実施する。

ウ 週時程に位置付けた指導と特定の期間における活動を組み合わせて実施する。

エ 学習時間を積み上げて35単位時間を実施する。

案 ポイント・リザーブ制

「奉仕」について学年(年次)を越えた学習(活動)時間の積み上げを可能とし、1単位の学習(活動)時間(全日制 50分×35週=1,750分、定時制 45分×35週=1,575分)に達したときに、当該年度において単位認定を行う。

② 年間授業計画及び評価計画の例

週時程に位置付けた指導(15時間)と夏季休業中の活動(20時間)を組み合わせる場合についての概要を次ページに示す。(二学期制前期で実施する例)

注4 東京都設定教科・科目「奉仕」(仮称)カリキュラム開発委員会中間報告書(案)(平成18年1月)参考

時期	学習過程	単元	時間	単元のねらい	学習内容	学習形態	観点別評価の例※				評価方法
							課題意識	主体的な取り組み	意識や行動の変容	貢献	
4月 5月	活動の前に考えよう	奉仕について	第1～4時(4時間)	「奉仕」を学ぶ意義を理解する。 奉仕活動の考え方や心構えを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科・科目「奉仕」を学ぶ意義について知る。</li> <li>「奉仕」の学習内容全体の流れを知る。</li> <li>奉仕活動の理解を深める。(ボランティア活動、地域・社会貢献への取り組み等)</li> <li>社会福祉協議会等の職員から、奉仕活動の考え方や心構え等についての講演を聴く。</li> </ul>	講義  講演	「奉仕」を学ぶ意義を理解できる。	「奉仕」について関心をもつことができる。	奉仕体験活動の実践に関心をもつことができる。	奉仕活動の考え方や心構え等を理解できる。	ワークシート(自己評価)
6月	実際に活動してみよう	活動計画づくり	第5～9時(5時間)	奉仕体験活動の意義を理解し、活動を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>奉仕体験活動の分野及び内容等を理解する。</li> <li>活動の内容を考えよう</li> <li>地域で取り組むことのできる奉仕体験活動について話し合う。</li> <li>活動内容を考えて奉仕体験活動希望調査を記入し、提出する。</li> </ul> <活動例> 1 学校で推薦する施設・団体等での奉仕体験活動 2 夏体験ボランティアの活動 3 自分で依頼し、計画を立案した奉仕体験活動	講義  グループ学習	奉仕体験活動の意義を理解し、活動内容を考えることができる。	活動内容を考える学習に関心をもって取り組むことができる。	地域で取り組むことのできる奉仕体験活動の内容を決定できる。	奉仕活動の考え方を踏まえた活動希望をもつことができる。	ワークシート(自己評価)  活動希望調査
自分の奉仕体験活動計画をつくる。				事前の打合せをしよう <ul style="list-style-type: none"> <li>施設や団体等の担当者と事前の打合せを行う準備学習として、活動のねらいや内容の希望等をまとめる。</li> <li>施設や団体等の担当者と体験学習を進める上での留意点について、事前の打合せを行う。</li> </ul> 実践のための計画書を作ろう <ul style="list-style-type: none"> <li>打合せの内容を踏まえ、計画を立案し、計画書の提出をする。</li> </ul>	活動計画づくりの方法や計画書の記入方法を理解できる。		事前の打合せや活動計画づくりに意欲的に取り組むことができる。	活動のねらいを踏まえた計画を作成することができる。	奉仕活動の考え方を踏まえた活動計画を立てることができる。	ワークシート(自己評価)  活動計画書	
第10～11時(2時間)			奉仕体験活動を行う上での留意点を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動を行う上で必要なルールやマナー等を知る。</li> <li>活動日誌、活動報告書等の記入方法を理解する。</li> <li>緊急連絡先や奉仕体験活動の目標等を確認する。</li> </ul>	講義  グループ学習	活動日誌や報告書等の記入方法を理解できる。	活動準備に意欲的に取り組むことができる。	活動を行う上で必要なルールやマナー等を理解できる。	奉仕活動の考え方や心構え等を確認できる。	ワークシート(自己評価)	
夏季休業中	活動の実践	第12～31時(20時間)	社会の一員であること及び社会に役立つ喜びを体験する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>奉仕体験活動を行う。(4時間×5日間)</li> <li>活動の概略を活動日誌に記入する。</li> <li>活動報告書をまとめる。</li> </ul>	実習	活動目標や内容、方法等を理解できる。	自ら目標をもって活動に主体的に取り組むことができる。	自ら進んで人とかわり、相手の願いや思いを踏まえて活動できる。	相手の思いや願いの実現に努め、社会に役立つ喜びを味わうことができる。	活動日誌(自己評価) 活動報告書 活動先の評価	
9月	活動をまとめよう	活動のまとめ	第32～35時(4時間)	奉仕体験活動の成果をまとめ、社会や地域に貢献することの大切さを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動を振り返り、自己評価を行う。</li> <li>感想文及び礼状の作成を行う。</li> <li>活動成果についてまとめ、発表する。</li> <li>自分の在り方生き方について考え、社会や地域に貢献することの大切さを理解する。</li> </ul>	講義  グループ学習  発表	活動成果のまとめ方や発表の方法等を理解できる。	活動の成果をまとめ、自己実現に生かすことができる。	自分の在り方生き方についての考えをまとめることができる。	社会や地域に貢献することの大切さを理解できる。	ワークシート(自己評価) 感想文 発表 相互評価表 自己評価表 生徒による授業評価

※東京都設定教科・科目「奉仕」(仮称)カリキュラム開発委員会において検討中である。

## (2) 奉仕体験学習コーディネーターの位置付け

「奉仕」の学習を円滑に実施するためには、奉仕体験学習コーディネーターとしての教員を位置付け、生徒（学校）と活動先（地域）とを結び、教職員相互の意見を調整することなどが必要である。ボランティアコーディネーターを例にとると、そのタイプは受け入れ型、仲介型、送り出し型の3つに分類することができる※1。学校における奉仕体験学習コーディネーターは、その中の仲介型と送り出し型の両方の機能を備えることが求められる。具体的な役割としては、生徒に活動先を紹介すること、生徒の活動意欲を高めること、活動先の理解を深めさせること、活動の様子を観察すること、振り返りの時間をつくることなどがある。

また、奉仕体験学習を推進するためには、奉仕体験学習コーディネーターを中心とした委員会の設置が有効である。ここでは、「奉仕」の授業に関するあらゆることの方針形成を担うとともに、授業を展開する上での様々な課題※2を解決していくことになる。ただし、奉仕体験学習は、社会の中で体験的に学ばせていくことが必要である。そこで、保護者、地域、関係諸機関等との連携を図っていくことが大切である。

各学校は、奉仕体験学習コーディネーターを活用し、円滑な授業の実施や奉仕体験学習の推進を図り、社会や地域に貢献しようとする生徒を育成することが望まれる。

### ※1 ボランティアコーディネーターの分類

受け入れ型	社会福祉施設などで、ボランティアの受け入れにあたり種々の調整を行う。
仲介型	活動を希望する個人・団体とボランティアの応援を求める個人・団体を結び、双方が円滑に活動できるよう情報提供をはじめ事前の調整や助言を行う。
送り出し型	学校、企業等、自らの設置目的と事業をもちながら、その構成メンバーがボランティア活動に参加する際に、組織として活動の場へ送り出す。

「ボランティアコーディネーター論」（全国社会福祉協議会、平成13年11月）より作成

### ※2 「奉仕」の授業を展開する上での課題例

事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会や外部講師への講演依頼</li> <li>・施設・団体等での奉仕体験活動の情報収集と整理、活動先一覧の作成</li> <li>・活動先へのあいさつ、生徒の活動内容等についての連絡・調整、依頼状の送付</li> <li>・活動希望調査票、活動計画書、活動日誌、活動報告書、自己評価表の書式作成</li> <li>・生徒への活動先の紹介、自分で依頼し、計画を立案する生徒の相談への対応</li> <li>・活動希望の受付・調整及び活動先の決定、活動計画書の内容確認</li> </ul>
活動中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の活動先及び活動状況の把握</li> <li>・巡回指導</li> <li>・安全・危機管理</li> </ul>
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動成果の発表とまとめ</li> <li>・生徒の提出物（活動日誌、活動報告書、自己評価表等）の内容確認</li> <li>・活動先への礼状、生徒の感想文等の送付</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動先の開拓及び活動プログラムづくり</li> <li>・年間授業計画・評価計画の立案</li> <li>・外部機関、近隣の学校とのネットワークづくり</li> <li>・保護者や地域等への奉仕体験活動実施に伴う情報提供と協力体制づくり</li> </ul>

## IV 今後の課題

開発した年間授業計画及び評価計画を基に具体的な授業の学習指導案を作成し、実践を通して検証を行い、内容を充実・改善する。